

政策提言「東北復興博覧会」研究会  
2015 年度活動計画

2015 年 6 月  
イベント学会  
政策提言「東北復興博覧会」研究会 事務局

## 【はじめに】

2012年イベント学会内の特別研究会としてスタートした本研究会は、今年で足掛け3年の活動となります。各年の研究の成果は、2012年は仙台市、2013年は東京都、2014年は大阪市で、それぞれイベント学会の研究発表大会の場で発表させていただきました。また、本研究会独自の動きとしては、河北新報社と東北大学国際防災科学研究所との連携で、「東北の創造的な復興に資する博覧会事業に関するシンポジウム」を、2014年2月に仙台の河北新報本社1Fホールにて開催いたしました。

本研究会では、2014年度の目標として2015年3月開催の「国連防災世界会議」で東北復興博覧会構想のデビューを図るということを掲げましたが、被災現地の各界指導者の皆さんとの対話の結果、「時期尚早」との判断で延期させました。その結果、現地の皆様の要望を活かした復興博覧会開催テーマに関する研究を再考し、「食と農」「花と緑」「国際スポーツ」以上3つのテーマ設定を行い、更に研究内容を深化させることが出来ました。

来年の2016年3月11日には、東日本大震災の被災から5年目という重要な節目を迎えます。被災現地の各界は勿論のこと、行政関係者や日本政府関係者からも「復旧から創造的復興への重要な転換点」との声も上がるようになってきました。我々の研究活動も、「政策提言内容を研究・構築」する段階から、「政策提言内容をアピールし、広く共感の輪を広げる段階」へとシフトするタイミングとなってきているのです。

この3年間は、会員全員が一体となって、幅広い視点からの政策提言型の研究活動を展開し、そのプロセスにおいて本研究会への参加を目指して多くの会員の皆様がイベント学会に加盟されました。また、政策提言内容のビジュアル資料化や印刷物化および、提言フォーラムやシンポジウム開催には、会員の皆様に物心両面にわたる特別協力体制で支えていただきました。

この3年間の活動成果を『より社会にアピールし、各界指導者の理解を深め、幅広い共感の輪を広げる次のステップへ』と、確実に発展させていきたいと考えております。

## 【1】2015年度の活動の方向性

2015年度は、2016年3月11日が被災から5年目というタイミングを見定めながら、「創造的復興に資する博覧会的事業」の意義と事業構造を、「積極的にアピールし、共感の輪を広げる」活動にステップアップする必要があると考えます。本年は、その最初の年と位置づけ、以下の3点を基本方針として掲げます。

①本研究会の研究成果を、「イベント学会の公式な研究成果」として内外にアピールする仕組みづくりが大切と考えます。イベント学会の多くの会員が共有すると同時に、イベント学会の対外的な情報発信力を強める活動としましょう。

②河北新報社や東北大学等、東北現地の関係者と構築してきたネットワークを、もっと地域に根ざし、地域の各界を巻き込む強力な存在になる様に協力しましょう。地方紙メディアによる連携ネットワークや、より多くのステークホルダーが参加出来る地域協働フォーラムの形成に汗を流しましょう。

③イベント学会と本研究会に参集する個人研究会員のそれぞれの社会的立場を活用させ、より多様なアピール活動の広がりを促進させ、関係中央省庁や各界オピニオンリーダーとの説明の機会を広げ、連携の息吹を育成させる自発的な活動の輪を広げていきましょう。法人研究会員の創意工夫ある支援も引き続き引き出しましょう。

## 【2】具体的な活動計画

上記の活動方針に基づいて、以下の具体的な活動を展開します。

①本研究会の政策提言内容を、イベント学会の公式ホームページにアップさせ、すべてのイベント学会会員がその内容に触れる事が出来るように働きかけます。また、本研究会が制作した政策提言報告書とパンフレットを、誰もが自由に閲覧でき、ダウンロードできるように工夫します。

②本年秋に、愛・地球博継承事業として愛知・名古屋で開催される「イベント学会・研究発表大会」に於いて、「地域創生の時代と博覧会～東北の復興博から～」(案)を趣旨とする特別フォーラムを企画し、関係者へ働きかけ、その実現を目指します。

③河北新報社を世話人とする、岩手日報社、福島民報社・福島民友社等地方紙連携による「東北の創造的復興に資する大型イベント研究フォーラム」（東北地方における地域フォーラム）の形成に積極的に協力すると同時に、情報提供やオピニオン提供に協力する。また、ステークホルダーの拡大にも協力する。

④本研究会会員の社会的なネットワークをより活用して、政府関係者や地元行政関係者、経済界リーダーへの本研究会成果の情報発信活動を広げる。また、「食と農」「花と緑」「国際スポーツ」に関するオープンなフォーラムを適時開催し、オピニオンの輪を広げる。

### 【3】具体的な研究会組織対応

改めて個人研究会会員と法人研究会会員の参加登録の呼びかけを行います。

①イベント学会理事会・総会において、本年度における本研究会の継続活動と具体的な活動内容の承認をいただきます。

②本研究会会員の幅広い継続参加呼びかけを行うとともに、新規研究会会員の参加拡大も測ります。

③研究会開催は、総会を年間 3 回程度とし、個別テーマに沿った分科会や地域フォーラムを適時開催させます。

④年会費については、個人研究会会員の会費を 1 万円とし、法人研究会会員の会費を 5 万円とします。研究会会費については、原則、研究会の会議運営費と事務局経費とします。イベント学会活動については学会事務局と相談のうえに推進します。

⑤本研究会独自の特別活動（特別フォーラム等）については、実施計画承認の下、特別会計方式の資金集めで対応するようにいたします。

⑥本研究会規約及び様々な諸規則に関しては、イベント学会事務局に相談し、都度連携しながら決定いたします。